

平成 29 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名：グループホーム ほっとスマイル(みのり)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900033		
法人名	社会福祉法人 つくし会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム ほっとスマイル (みのり)		
所在地	〒020-0821 岩手県一関市三関字小沢47番地2		
自己評価作成日	平成29年10月1日	評価結果市町村受理日	平成30年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/i.ndex.php?acti.on.kouhyou_detai.1.2016.022.kani=true&Ji.gvosyoCd=0390900033-00&Pref.Cd=03&Ver.si.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成29年10月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・職員は「明るく笑顔の絶えないホーム」の理念を目標に利用者やご家族の意向を傾聴し利用者が安心して安全に暮らせるよう支援している。
 ・医療機関や調剤薬局と連携を図り適切な医療を受けると共に、通院が困難になった利用者には訪問診療を利用できるよう支援している。
 ・ボランティアを受け入れたり地域の方との交流の場を設けたり、合同行事や個別支援により楽しみをもって暮らせるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームの事業所理念「明るく笑顔の絶えないホーム」は、職員間の話し合いで定めたもので、実践にあたっては法人の経営理念11項目と併せて、職員一人ひとりが理念を意識しながら日々のケアに当たっている。また、裁縫ボランティアの皆さんには、現在、2ユニットの利用者18人分の防災頭巾を製作して頂いたり、事業所の避難訓練時に協力を頂いている。各ユニットの管理者は、それぞれの利用者の特徴や個性を把握し、個々に応じた支援に努力されている。なお、法人全体で事業運営において全職員が知恵を出し合いながら目標を達成する取り組みを行う、いわゆるアメーバ経営に取り組んでおり、各職員の意識の向上が図られケアの改善等に効果が現れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

平成 29 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム ほっとスマイル(みのり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員が利用するトイレや目につくところに貼っている。全職員は理念を実践することを意識してケアにあたっている。	法人の運営理念とは別に、職員で話し合い定めたホームの理念「明るく笑顔の絶えないホーム」を玄関や事務室、更衣室等に掲示している。また、法人の経営理念11項目を常に意識し、質の高いケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方のボランティアを受け入れて交流をもっている。所長は地区総会に参加したり、一斉清掃の前に利用者と一緒に施設周辺のゴミ拾いをしている。	自治会に加入し総会にも参加し繋がりを深めている。地区の一斉清掃では、当日早朝の利用者の参加は難しいので、前日に利用者や近所の清掃している。今年初めて中学生の体験学習(5日間)を受け入れ、今後も継続したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの広報を回覧したり、運営推進会議で認知症の方の状態に職員がどのように支援しているかを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	広報を見ながらホームでの行事の様子などを報告している。また、子供みこしの時にホーム前でゆっくり見せていただけるように配慮していただいた。	会議には、本人・家族も委員となっている。利用者の動静や敬老会等行事の実施状況、避難訓練時の消防署からの指導事項等が報告され、委員から感想や意見を頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいたり、生活福祉課の職員や介護相談員の方の来所時に情報交換をしている。	推進会議に担当課から毎回職員が参加し、助言や時宜を得た情報を頂いている。介護保険の申請には、直接市に出向いている。また生活保護受給者の担当職員と連携を図っている。なお、介護相談の訪問を通じて相談、助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については職員勉強会を開催し理解を深め、身体拘束をしないケアに努めている。日中は玄関の施錠をしていない。	身体拘束をしないケアを職員勉強会で年に1度、研修テーマに取り入れている。また、担当職員が前月の事故報告書とヒヤリハットを分析結果を発表し、その際に声掛けや支援方法などを話し合い、行動抑制に繋がらないよう支援の方法などを考え、取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については職員勉強会を開催し、職員の虐待防止への意識を高めている。また、言葉遣いにも気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員勉強会を開催している。成年後見人制度を利用している方がいるので、適正に利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項については十分説明し、利用にあたって不安や疑問点などは些細なことでも遠慮なく聞いていただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見や要望を聞くようにしている。また、契約時に重要事項説明書に記載されている苦情受付窓口などがあることを説明している。	家族から面会時や電話等で意見や要望を聞いている。利用者ごとに担当職員を決めており、一人ひとりに担当者のコメントを付けた手作りの「ほっとスマイル通信」を毎月送り喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議などで職員から意見が出された場合は所長と管理者で話し合い、反映させるようにしている。判断に迷うことは理事長に相談している。	法人全体で知恵を出し合いながら目標達成等を目指すアメルバ経営に取り組んでおり、職員が意見や提案することで、職員も予算管理等、運営に関する意識の変化が見られ効果を挙げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の実績や勤務年数に応じた研修に参加する機会を設けている。また、希望休を取り入れたり、救急時に対応した職員の時間外勤務の手当てをつけてもらえるよう理事長に報告している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修に参加する機会を設けている。新人職員は法人の新任職員研修会に参加し、多職種の代表者の講義を受け、実践に生かしている。また、各自目標を立て、半年ごとに面接を実施することを取り入れた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回は3グループホームの管理者同士で情報交換している。やむを得ず長期休暇を取る職員がいる時には応援職員を派遣し協力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査で困っていることや不安、要望等を聞き、安心して入所できるよう努めている。また、担当ケアマネジャーからも困りごとなどを教えてもらい情報共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームを見学し、実際に入所されている利用者さんの様子を見ていただくよう勧めている。不安や要望を傾聴し、安心して利用していただけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の要望を傾聴し、ケアマネジャーを通して情報収集し、どんな支援が必要かを職員間で話し合い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思いを大切にしながら、今まで家庭でしていた家事などを継続できるよう環境を整えたり、一緒に行くことで教えられたりし、暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日常の様子を伝えたり、毎月の広報で担当職員がメッセージを書いて様子を伝えている。誕生日や敬老会にご家族に参加を呼び掛け、一緒にお祝いするなど共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚の方や友人の面会時には居室でゆっくりお話しできるようにしている。また、馴染みの理容室に送迎し関係が途切れないようにしている。	親戚・知人・友人の面会時は、居室に案内しお茶や菓子を提供している。馴染みの理容所や美容院でお話しするのを利用者は楽しみにしており送迎している。訪問理容を利用している方も、理容師と馴染みの関係になっている。ふるさと訪問として、入居前に住んでいた自宅に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの性格や相性などを見ながら席替えをしたり、一緒に活動できるよう支援している。利用者同士のコミュニケーションもある。時に口論もあるが、職員が間に入り関係が悪くならないよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の特養に入所した方は職員の健診時などで立ち寄った時に面会したり職員から様子を聞いたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で何気なく話した言葉からも利用者の思いや希望をくみ取れるような関わりを大事にしている。	入浴や排泄の介助時など、他の人が居ないときに、昔のこととか、家族のこと等、思いを話してくれることが多く、信頼関係が深められる場として大切にしている。把握した事柄は、業務日誌等に記載し共有に努め、介護計画に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査の時にご本人やご家族、担当ケアマネから情報収集しこれまでの暮らし方について把握することに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定し、体調を把握している。個々の状態は毎日の申し送りで共有している。また、薬の変更など大切な事は『ケアに関するノート』に書きだし、確実に共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	立案前にご家族からの意向を聞いて、職員会議でカンファレンスをして意見を出し合い、介護計画に反映させている。	毎月のミーティングで、担当者のモニタリングを基にカンファレンスをし、評価・見直しをしている。また、担当者は、計画立案前に家族の意向を聞き、介護計画に反映させている。計画は、ケアマネが本人・家族に説明し、署名できる方は本人がサインしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は業務日誌、ケアの実践の有無は介護計画のチェックシートで確認している。また、情報の共有は毎日の申し送りや連絡ノートを活用している。必要に応じて睡眠表をつけて睡眠時間の把握にも努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望に合わせてご家族に電話を掛けたり、外出できるよう支援している。外泊はご家族の協力をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方に裁縫ボランティアに来ていただき、針などの管理や縫い方の見守りをしながら、一緒に活動していただいている。本年度は防災頭巾を作成していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	入所後もかかりつけ医に継続して診ていただけるよう支援している。利用者の状態により通院が難しくなった場合は訪問診療の利用を勧め、適切な医療を受けられるよう支援している。	入居前のかかりつけ医を継続しており、医師とは連携が保たれている。通院は原則家族が付き添っている。付き添いが困難のときは本人や家族の希望で訪問診療に変更する場合もある。受診の結果は、申し送りノートで共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	週1回の看護師勤務時には利用者の体調の変化や状態を報告し、対応の指示を仰いでいる。看護ノートを活用している。また、通院に同行してもらい医療機関との連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを提出し、情報提供している。面会時は看護師からご本人の状態を聞いたり、退院時には医師や看護師から退院後の注意点等情報をいただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にグループホームで対応できない身体状態について説明しているが、ご本人の状態に応じて再度説明している。重度化した場合を踏まえてご家族の意向を聞きながら特養の申し込みを勧めるなど支援している。	重度化したときは、訪問診療による支援や特別養護老人ホーム等に紹介する旨を家族に説明している。なお、看取り対応については経験不足及び学習不足等の認識から今後の課題としている。	グループホームでの看取り対応の期待があることから、貴法人内の特別養護老人ホーム等での経験を学んだり、看取り対応指針の作成、訪問看護との連携の在り方、看取り対応の内外研修への参加などの取り組みを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	西消防署に救命講習会を依頼し心肺蘇生法やAEDの使い方の講習を受け緊急時に備えている。急変時などの対応を看護師に相談し指示をいただいている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、利用者の誘導経路や避難方法を全職員が把握している。また、実際に暗くなってからの避難訓練を実施し問題点を把握することが出来た。	日中や夜間想定した避難訓練を実施しているが、暗くなってからの訓練において決められた避難場所に誘導する際に、交通量が多く横断に危険が伴うなど課題への対応策を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊重し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけを心掛けている。慣れ合いにならないよう言葉遣いにも気を付けている。また、個人情報については契約時に同意を得たもののみ使用している。	利用者へは、声の大きさ、調子等個々に配慮した声かけをしている。日々の生活の中で、利用者の経験や知識を教えられることがあり、人生の先輩として対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分から希望を言える方もいるが希望を表現せない利用者に対しても日常の会話や行動からどんなことに興味を持つのかをくみ取るようにしている。決定を促す時は二者択一など答えやすい方法で対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの生活リズムを尊重し一人一人のペースに合わせて暮らせるようにしている。居室に長くひきこもることがないように、時にはレク活動など皆さんで行うことも取り入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に合わせて介護理容やなじみの理容室を利用できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものや好きな食べ物を聞いたりして献立に取り入れている。旬の野菜を取り入れたり季節行事にあった食事を提供している。茶碗拭きなどもしていただいている。	献立は当日、利用者に食べたいもの聞きながら、ユニットごとに決めている。食材は1食10品以上使用し、季節や行事に合わせた食事を提供している。職員も、利用者と同じ食卓で、会話しながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は10品目以上の食材を使うようにしている。食事量や水分量が少ない方はチェック表を使用して摂取量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて声掛けや介助をしている。昼食前には口腔ケア体操を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録し、排便回数や下剤の服用状況の把握に努めている。利用者の排泄パターンに応じてトイレで排泄できるよう声掛けや誘導をしている。	排泄チェック表を参考に、個々に応じたトイレ誘導をしている。便秘に注意し、センナの煎じ液を利用して、体に優しい排泄に配慮している。布パンツ、リハビリパンツ、尿取りパット併用、紙おむつ、夜だけのポータブル使用等、多様な支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認し、下剤や整腸剤の服用管理をしている。薬だけでなく牛乳・ヤクルト・ヨーグルトなどを毎日取り入れたり体操をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ利用者の希望を聞くようにしている。入浴したくない日は日にちを変えるなど対応している。	入浴は週2回としているが、利用者の体調や気分等の状態に応じ足浴・シャワー浴とする時もある。なお、疥癬の方の使用したマットは厳重に消毒するなど、清潔保持に留意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の習慣がある方には居室で休んで頂いたり、体調を見て横になれるよう声掛けしている。室温にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局と連携をとり、配達時に薬の服用法や副作用などのアドバイスをいただいている。薬が変わった場合はケアノートに申し送り事項を書いたり、薬箱に付箋を貼り周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの暮らしの中でしてきた家事や買い物が続けられるよう一人ひとりに合わせて支援している。外食支援やドライブなどで気分転換していただけるよう計画を立てて実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食に行きたいという希望に添えるよう計画を立てたり、ひな祭りやお花見などドライブに出掛けられるようにしている。また、ご家族と外出したり外泊など出来るよう協力をいただいている。	家族との通院時の外食や職員との通院時のスーパーでの買い物など、外出の機会を活用し楽しんでいる。ドライブには中尊寺や厳美溪の桜、花泉の牡丹園等に出かけ、季節の感じを味わっている。ふるさとめぐりを支援したり、散歩が少ない利用者には、園庭でお茶したり、洗濯物を取り込む手伝いをしてもらったりして健康保持等に配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には職員が管理している。自分でお金を所持し、買い物や通院で支払いをしている利用者さんがいる。自己管理が難しい方でもパン屋さんなどが来た時には買い物できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話をかけたいと希望があるときはかけている。ご家族から電話がくることも多いので、ご本人にも代わってお話してもらっている。年賀状にも本人から一言書いてもらうようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは広く、車いすやシルバーカーを使用しての生活も可能。温度や湿度管理をして過ごしやすい環境を作っている。また、利用者と一緒に季節ごとに壁飾りを作っている。	共有のホールや廊下の壁には、体験学習の中学生と一緒に作成した飾りや、季節を先取りしたクリスマス仕様の雪だるま等、にぎやかに飾られている。また、作品は、法人の文化祭に出展している。加湿器やファンヒーターを併用し、室温、湿度の調節に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席は利用者さん同士の関係に配慮して時々席替えをしている。フロアにソファー、廊下にベンチを置いて自由にくつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンスやテレビなど自由に持ち込みできるので、必要に応じて持ってきていただいている。また、立ち上がりなど不安定な方には施設の椅子を貸し出している。	居室には、エアコン、ベッド、マットレス、クローゼットが備え付けてある。寝具は持込で、小筆筒、衣装ケースのほか、テレビ、ラジオ、時計等を持ち込み居心地よく配置している。居室は掃除が行き届き、整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人が見てわかるように、トイレや居室に表示している。また、トイレ、廊下、浴室などには手すりを設置している。シルバーカーを使用してできるだけ自分で移動できるように配慮している。		